

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344

三船病院の大規模建て替え工事の終了を控えて

—外来診療棟と認知症治療病棟の完成—

院長 三船 和史



平成28年4月に始まった三船病院大規模建て替え工事は、平成29年11月に第1期工事、平成31年3月に第2期工事を終え、この7月末で残りの関連工事が終了する見通しとなりました。

第1期工事では3階建ての新しい建物を完成させ、これについては平成30年2月1日発行の三愛ビュー第46号(当院ホームページに掲載)で述べさせて頂きました。第2期工事に先立って、時計台のある5階建ての建物を取り壊しました。過去にはその建物に5つの病棟があり、改修しながら運用していましたが、病棟のダウンサイジングによって最終的に1つの病棟のみ残っていました。昨今の耐震化問題等もあって取り壊すことを決定し、その跡地に三船病院で今最も必要とされている施設をつくることにしました。第2期工事で完成した2階建ての建物は、1階が外来診療棟で2階が認知症治療病棟になっています。

三船病院の従来の外来施設は昭和54年に完成し、構造的に待合所が狭く、近年外来診療に重きを置いている状況の中で大きな悩みでありました。入院患者の疾病構造と異なり、外来では統合失調症よりもうつ病や神経症性障害が多く、さらに、発達障害、パーソナリティ障害、薬物依存、アルコール依存症、認知症など多様であり、いずれの患者様にも対応できるような診療態勢と外来施設が求められます。診療態勢についてはこれまで質を高め充実するよう努めてきましたが、患者様が、プライバシーを守られ、より居心地良く待合室で過ごすことができるような外来施設が求められていました。



新しい外来診療棟は5つの診察室、2つの予診室、待合室からなります。待合室は広く3ゾーンにセクション分けされ、物理的にもプライバシーをより保つことができるようにしており、外来患者様の受診時の環境が非常に良くなったと思います。どうしても待ち時間が長くなることもあり、その間ストレスなく過ごせるように環境整備しました。以前は病院職員の動線上に外来待合所があり、好ましい状況ではなかったのですが、現在は完全に分離されています。医師も待合室を通らず、医局から直接診察室に入ることができます。



当院では、従来からお名前ではなく番号でスタッフが呼び出し、外来患者様の個人情報に配慮してきました。今回は患者様のプライバシーをより重視し、スタッフが呼び出すことはほとんど必要がなく、モニターによる外来案内表示システムを使用しています。当院の電子カルテと連動しており、モニターでご自分の待ち順番を知ることができますし、順番が来れば、ピンポンという音とともにモニターに順番が来たことをお知らせします。このシステムは待合中のストレスの軽減に役立っています。新しい外来診療棟に隣接して、軽食・喫茶・売店アゴラができました。軽食喫茶コーナーには外来案内表示モニターを設置しており、そこにもご自分の外来待ち状況を知ることができます。



完成した建物の2階は認知症治療病棟です。昭和50年代の初め頃から社会的に認知症への関心が高まり、昭和60年代初め頃から認知症を受け入れる精神科病院や老人施設の新たな制度が次々とできました。当院では昭和50年より前から認知症患者の入院治療を実施していましたが、平成7年に制度化された認知症専門病棟をスタートさせました。当時の基準で作った病棟建物ですが、作りがあまり良くなく、入院患者様のために早く改善することが待ち望まれていました。今回完成した病棟は療養環境が非常に改善しており、今後の当院の認知症医療の展開に寄与するものと期待しています。



第2期工事を終えて、現在玄関のある3階建ての本館の改修工事を進めています。周囲からの期待もあって、その屋上に三船病院のシンボルでもありました時計台を復活させることにしました。これをもって一連の工事が終了することになります。これまで長い期間にわたって患者様、ご家族、関係者の方々には大変ご迷惑をおかけしました。ハード面を充実させることができましたので、これからは医療の質を高めるよう努めてまいります。

三船病院医師からのメッセージ・・・



—生活習慣病について—

医師 平田 仁美

よく耳にする生活習慣病についてご存じの方も多いと思います。生活習慣病は、不規則な食生活や食べすぎ、運動不足の他、塩分や脂肪の多い食事、カロリーの高い食事、偏食などが原因で起こります。また、タバコや飲酒、ストレスも原因となり、内臓に脂肪がたまる「内臓脂肪型肥満」が生活習慣病の発症や悪化に大きく関係しています。生活習慣病の中でも、高血圧、脂質異常症、糖尿病はほとんど自覚症状がありません。しかし、これらの病気は放っておくと血管が硬くなり、血液がうまく流れなくなったり、つまったりする動脈硬化を引き起こします。動脈硬化が進むと、脳梗塞や心筋梗塞、さらには突然死の引き金となります。生活習慣病の治療の基本は、食事療法と運動療法です。高血圧、脂質異常症、糖尿病では血圧測定や血液検査を行い、それぞれの病気で決められている基準の数値を上回る場合には治療を開始します。また、肥満については、胴まわりが男性85cm以上、女性90cm以上の「内臓脂肪型肥満」に加えて、血圧、血糖、血清脂質(コレステロールや中性脂肪)のうち2つ以上が危険な数値である場合をメタボリックシンドロームと呼びます。メタボリックシンドロームと診断された人は、そうでない人に比べて動脈硬化の進み具合が速く、脳梗塞や心筋梗塞の危険性が高いため、まず、メタボリックシンドロームを改善することが重要になります。食事療法や運動療法でも血圧や血糖、血清脂質の数値が良好にコントロールできない場合には、血圧を下げたり、血糖や血清脂質を下げるための薬を使った治療が同時に行われます。塩分控えめで、バランスのよい食事を心がけること、なるべく外食を避けて、規則正しく食事をとること、食べすぎないことなどが予防につながります。また、エレベーターを使わず階段を歩いて上る、仕事や家事の合間にストレッチ体操を行うなど、全身を動かす運動を心がけ、やりすぎないように気をつけましょう。禁煙、適度な飲酒、ストレスをためないように気分転換を図ることなども重要です。日頃からちょっとした行動を気にかけて健康な身体作りを心がけましょう。

三愛会ピックアップ

☆☆三船病院5月フェスタ☆☆



これまで毎年5月に開催していた三船病院家族会でしたが、今年からは地域の方をはじめ、より多くの方にご来場いただきたいという思いから名称を変更しました。新しい名称は、『三船病院5月フェスタ』です。

新しく認知症の医療相談コーナーを設け、医師、看護師、精神保健福祉士が対応しました。

四国医療専門学校 학생さんによるタクティールケアコーナーは、多くの方が体験され「気持ち良くて、日頃の疲れが癒された」ととても好評でした。

ゲストには、「アンサンブル・ルーナ」の皆さんが来て下さいました。素晴らしい合唱に、参加された方々は時間を忘れて聴き入っているようでした。

また、今年の劇は「北風のくれたテーブル掛け」というテーマでした。患者様と職員が一体となりとても素敵なステージでした。恒例のバザーも活気に溢れ、笑顔がたくさん見られました。

演芸会の後は第41回家族教室を開催しました。当院の川田副院長より「認知症の備え」について講演がありました。認知症という病気の説明をはじめ、予防の為の食事や生活についての注意点など話があり、認知症についての理解を深める良い機会となりました。



三船病院 委員会活動紹介

— 接遇管理委員会 —

委員長 事務長 北村 直幹

平成31年3月、三船病院建て替え工事の第二期工事が終了し、1階部分に外来診察ゾーンと売店・カフェアゴラが、2階部分には認知症病棟を配した新北館がオープンしました。旧北館は5階建ての建物の上に時計台があり、まさに三船病院の象徴ともいべき建物でした。新しい北館は2階建てで、建物はコンパクトになりましたが、患者様や関係者の方々が来院された際気分よくお出迎えできるよう各所に趣向を凝らし、新たな三船病院の顔とも呼べる立派な建物となりました。建物も新しくなり、私たち病院職員も新たな気持ちで来院される方々のご要望に対応していきたいと考えています。

「接遇管理委員会」は毎年5月と11月の第2水曜日に開催されており、患者様やご家族への接遇向上と職員間の意思疎通の改善を図り、病院の基本理念及び基本方針の達成を目指し活動しています。病院の基本理念『病院の愛、家族の愛、社会の愛(三愛)に包まれた患者様の医療を目指します』はまさに私たち職員が目指す接遇を言葉で表したものです。時代も平成から令和へと変わり、新たな三愛の精神を心に刻み、気持ちの良い接遇を心掛けたいと思います。



《委員会》

- | | | |
|--------------------|---------------------|-------------------|
| ・教育委員会(第1水曜日) | ・衛生委員会(第2水曜日) | ・病院機能評価委員会(水曜日) |
| ・個人情報保護委員会(第1水曜日) | ・業務改善委員会(第2水曜日) | ・倫理委員会(年1回) |
| ・情報システム委員会(第1水曜日) | ・診療録管理委員会(第2金曜日) | ・医療ガス安全管理委員会(年1回) |
| ・クリニカルパス委員会(第1水曜日) | ・薬事審議委員会(第2金曜日) | ・予算管理委員会(年1回) |
| ・地域生活支援委員会(第1水曜日) | ・院内感染対策委員会(第3金曜日) | ・接遇管理委員会(年2回) |
| ・行動制限最小化委員会(第1金曜日) | ・栄養管理委員会(第2水曜日) | ・診療情報提供委員会(随時) |
| ・人権委員会(第1金曜日) | ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日) | |
| ・医療安全管理委員会(第2水曜日) | ・患者サービス向上委員会(第2水曜日) | |



介護老人保健施設 福寿荘

—介護業務について—

介護福祉士 石川あかね

私が福寿荘に就職して1年経ちました。社会人になったばかりで、初めの頃は不安でいっぱいでしたが、先輩からの丁寧な指導や利用者様、ご家族の方が温かく見守ってくれたおかげでここまで来ることができました。感謝しています。

介護福祉士の勤務形態は、早出、日勤、遅出、夜勤の4形態あります。どの勤務でも出勤したら、申し送りに参加したり、記録を見たりして、利用者様の情報を把握し、その日の予定を確認します。一度聞くだけでは忘れてしまうので私はメモを取るようになっています。その後、一人ひとりのスケジュールに合わせて入浴やリハビリ、食事などを利用者様に声掛けをしたり、介護をしています。業務というとたくさんありますが、主には食事介助、入浴介助、排泄介助(おむつ交換)の三つがあります。その3つを紹介します。

食事介助においては、自力摂取ができない方やスプーン等セッティングすれば食べられる方など様々な利用者様がいます。一人ひとりの身体の状態を把握する必要があります。体調を崩している方や食事が少ない方もいるので、日々食事をチェックし、看護師へ報告しています。

次に入浴介助についてです。福寿荘には座位姿勢で入る車椅子浴と臥位で入る特殊浴槽があります。基本的には立位や座位がとれるかどうかでどちらかに分かれます。衣類の着脱の際に皮膚状態を観察し、剥離や傷、褥瘡があれば報告し、看護師がガーゼや薬で処置しています。入浴時に心身状態の悪い方は入浴を中止し、清拭を行い衣類交換をします。

最後に排泄介助についてです。終日おむつを使用している方やトイレ誘導が必要な方、自分でトイレに行ける方など利用者様一人ひとり違うため、その方に合った介助をしています。また、日々の排泄介助やおむつ交換時に洗浄を行い、陰部の清潔が保てるよう気をつけています。

私が紹介したのは3つですが、他にも業務はたくさんあります。介護は大変なこともあります、利用者様をはじめ毎日様々な人と関わることができ、自分自身も成長できる仕事だと思います。これからも初心を忘れず笑顔で頑張っていきたいと思います。



三愛会コミュニティセンター

—地域活動支援センターはなその取り組みと今後の展望—

地域活動支援センターはなぞの 船井 未央

地域活動支援センターはなぞのは、地域で暮らす精神障害のある方に向けて、活動の場やいこいの場の提供、生活の中で困っていることの相談の場の提供などを行っています。現在、県内外合わせて約130名の方が利用登録をされていますが、日中の来所利用者は13人前後の少ない利用になっています。毎日午前8時～午後5時15分まで開所しており(祝日は閉所)、毎日通ってこられる方、活動に参加される方、職員と定期的に面接相談をされる方、受診や作業所の帰りに立ち寄られる方、電話で相談される方など、それぞれの生活に合わせてさまざまな活動を実施しています。また、近年支援計画に従い生活の自立と安定をはかるため訪問活動も行っています。

今後は、利用者から要望のある居場所や活動に対して、季節を感じることでできる活動を積極的に取り入れたり、定期的に行っている活動の充実など、メンバー皆様の一人ひとりの生活に応じた活動の企画や提供ができるように取り組んでいきます。

はなぞのでは現在、精神保健福祉士の3名の職員(うち2名は兼務)が配置されています。利用される多くのメンバーの皆様が来て心安らぐ場所になるよう、その人らしい暮らしが送れるように場として、ともに歩んでいけるような支援を提供させていただけたらと思います。

《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】★三船病院夏祭り

今年も8/3(土)に開催を予定しております。多くの方のご参加をお待ちしております。

《編集後記》

初夏の風が心地良い季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。平成から令和という新しい時代を迎えると共に、三船病院も新たな時代を迎えようとしています。今後ともスタッフ一同、より良い医療を目指して取り組んでいきます。(三船病院相談室PSW)